堺化学工業株式会社

2027 年 3 月期 中間決算説明会

2026 年 11 月 9 日

イベント概要

[企業名]	堺化学工業株式会社
[企業 ID]	4078
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2027 年 3 月期 中間決算説明会
[決算期]	2027 年度　第 2 四半期
[日程]	2026 年 11 月 9 日
[ページ数]	26
[時間]	15:30 – 16:03 （合計：33 分、登壇：15 分、質疑応答：18 分）
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	31 名
[登壇者]	1 名 取締役執行役員　　大釜　信治（以下、大釜）

登壇

司会：それでは定刻となりましたので、堺化学工業株式会社 2027 年 3 月期第 2 四半期決算説明会を開催いたします。本日はお忙しい中お時間を頂戴し、誠にありがとうございます。本日はウェブ配信のみの開催となっております。

本日の予定ですが、まず担当役員であります取締役経営戦略本部長の大釜よりご説明させていただいた後、皆様からのご質問をお願いいたします。また、本日のご説明の資料については、誠に申し訳ございませんが決算発表と同日開催ということもございますので、事前にはお送りしておりませんので画面をご覧いただきながらお聞きいただければと思います。

なお、先ほど弊社ホームページでも同じ資料を開示しておりますので、あわせてご参照いただければと思います。

それでは早速、決算のご説明に入らせていただきます。では大釜本部長、お願いいたします。

大釜：皆様こんにちは。堺化学 IR 担当の大釜でございます。

本日はお忙しいところ、誠にありがとうございます。堺化学工業株式会社 2027 年 3 月期中間決算について説明いたします。

本説明のポイント

27.3期上期実績

- **計画対比は、計画以上の進捗**
  - ・電子材料：AIデータセンター関連の需要を取り込み、好調に推移。
  - ・衛生材料：新規案件獲得や、コストダウン施策が寄与。
  - ・受託加工：高付加価値品の出荷などが寄与し、販売構成が好転。
  - ・無機材料： 塗料インキ向けバリウム製品、開発品(メガネレンズ向け材料)が堅調に推移。
- **前年同期比は、増収増益を確保**
  - ・顔料級酸化チタン事業終了に伴う売上高、営業利益への影響を主に以下事業でカバーした。
    - →電子材料/衛生材料/受託加工については、計画対比と同様。
    - →樹脂添加剤：国内事業の効率化の進展や海外での非鉛系安定剤などの販売が好調に推移。
  - ・化粧品材料、医療事業については、減益となった。
    - →化粧品材料：海外向けを中心に回復も、顔料級酸化チタン事業終了影響等により減益。
    - →医療事業：薬価切り下げや原燃料高の影響を受け減益。
- **60億円/1,520千株の自己株式取得を実施。**
  - CB（新株予約権付社債）転換により、新株1,519千株を発行。1株当たりの株主価値及び資本効率の向上を図るために自己株式取得を実施。取得株式に関しては、消却予定。

27.3期通期計画・中計の進捗

- **期初計画から、売上高＋33億円、営業利益＋5億円を見込む。**
  - ・上期での計画以上の進捗を考慮。下期の主な見通しは以下の通り。
    - →電子材料：AIデータセンター関連や車載用途向けが引き続き堅調に推移。
    - →酸化チタン/亜鉛製品：国内亜鉛建値相場の高騰による収益上振れが継続。
    - →無機材料：開発品は下期に調整が入るものの、バリウム製品等の販売は堅調に推移。
    - →その他事業：道路材などの荷動きが堅調に推移。
- **純利益：＋2億円**
  - 医療事業での構造改革費用を上期で計上したが、下期に政策保有株式の売却益を見込む。
- **株主還元：年間配当金は前回公表値を据え置く。**
- **ROE8%達成に向けて引き続き取り組む / CCC(180日以下)は達成できる見込み。**

説明のポイントをこのスライドに記載をしております。

まず、2027 年 3 月期上期の実績でございます。電子材料は AI データセンター関連の需要を取り込み好調に推移いたしました。また、衛生材料、受託加工、無機材料も堅調に推移し、計画以上の進捗となりました。

前年同期比で見ましても、顔料級酸化チタンの事業終了に伴う売上高、営業利益への影響を、電子材料、衛生材料、受託加工、樹脂添加剤でカバーし、増収増益を確保しました。

一方、化粧品材料、医療事業については減益となりました。化粧品材料は海外向けを中心に回復しておりますが、顔料級酸化チタン事業終了に伴う固定費配賦増の影響があり、減益となりました。また、医療事業は薬価切り下げや原燃料高の影響を受け、減益となりました。

そして、60 億円、152 万株の自己株式取得を実施しました。CB 転換により新株 151 万 9,000 株を発行しました。そして、1 株当たりの株主価値および資本効率の向上を図るために、自己株式取得を実施しました。取得株式に関しましては、消却予定でございます。

次に、2027 年 3 月期の通期業績計画につきまして、下期も電子材料は堅調に推移する見込みであることなどから、期初計画から売上高はプラス 33 億円、営業利益はプラス 5 億円上方修正いたしました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、医療事業での構造改革費用を上期で計上しましたが、下期に政策保有株式の売却益を計上する予定であり、プラス 2 億円を見込んでおります。配当予想につきましては、前回公表値を据え置いております。

中計の進捗につきまして、ROE8%達成に向けて引き続き取り組んでおり、CCC（キャッシュ・コンバージョン・サイクル）につきましては、180 日以下、この目標は達成できる見込みでございます。

2027年3月期 中間決算サマリー

● 前年同期比（売上高：+6.6% ／ 営業利益：+6.3%）

顔料級酸化チタン事業終了影響を、各事業でカバーし、増収増益を確保した。
売上高は、主に成長事業やその他事業でカバーし、6.6%の増収となった。
営業利益は、主に電子材料や受託加工、樹脂添加剤で利益を伸ばし、6.3%の増益となった。

外部要因		内部要因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場が好調に推移 ・国内亜鉛建値市況の上昇	・中国経済の長引く低迷 ・タイ経済の低迷 ・国内建材関連の需要低迷 ・日焼け止め市場の流行変化 （無機系 → 有機系）	・価格改定の実施 ・販売構成向上 (電子材料、受託加工) ・拠点集約完了(触媒)	・操業度の低下 （チタン事業の終了） ・一過性の評価損 （電子材料）

● 期初計画比 (売上高：+3.1% ／ 営業利益： +12.5%)

売上高は、主に電子材料や、衛生材料、無機材料事業などの販売が好調に推移し、3.1%の増収となった。
営業利益は、安定事業での販売構成の向上や、効率化検討事業(無機材料)での販売量増により、12.5%の増益となった。

外 部 要 因		内 部 要 因	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場が好調に推移 ・国内亜鉛建値市況の上昇	・中国経済の長引く低迷	・販売構成の向上 （受託加工）	・一過性の評価損 （電子材料）

SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD. 4

2027 年 3 月期中間決算サマリーを説明します。

前年同期比で売上高は酸化チタン事業終了の影響を各事業でカバーし、6.6%の増収となりました。営業利益は主に電子材料や受託加工、樹脂添加剤で利益を伸ばし、6.3%の増益となりました。

期初計画比で売上高は、主に電子材料や衛生材料、無機材料事業などの販売が好調に推移し、増収となりました。

営業利益は、安定事業での販売構成の向上や、効率化検討事業、特に無機材料の販売量増により増益となりました。

2027年3月期中間決算業績概要（前年同期比、計画比）

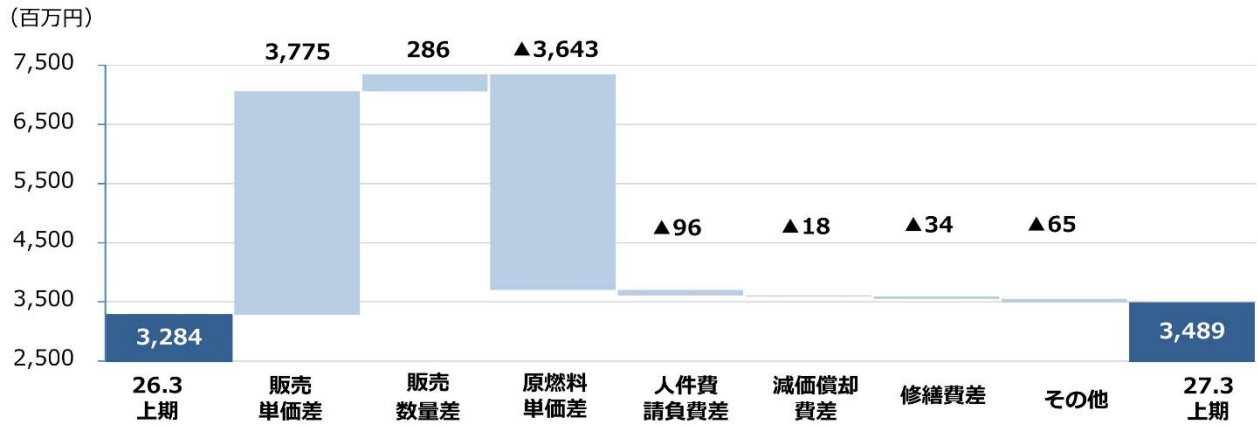
	26.3 上期実績		27.3 上期実績		前年同期比		27.3 上期計画		27.3 上期計画比	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
売上高	40,353	—	43,000	—	2,647	6.6	41,700	—	1,300	3.1
営業利益	3,284	8.1	3,489	8.1	205	6.3	3,100	7.4	389	12.5
経常利益	3,269	8.1	3,572	8.3	303	9.3	3,200	7.7	372	11.6
親会社株主に帰属する当期純利益	2,926	7.3	2,522	5.9	▲404	▲13.8	2,800	6.7	▲278	▲9.9
EPS	184円65銭		161円25銭		—		182円87銭		—	

	前年同期比	期初計画比
売上高	顔料級酸化チタン事業終了による効率化検討事業での販売量減少はあったものの、電子材料やその他事業が好調に推移し、6.6%の増収となった。	顔料級酸化チタン事業終了にともない、酸化チタン・亜鉛製品での売上高の減少を、半導体市況が好調に推移した電子材料や、衛生材料、無機材料事業での販売量の増加により、計画比＋3.1%となった。
営業利益	電子材料が好調に推移し、安定事業での販売構成の向上もあり、6.3%の増益となった。	電子材料において一時的な製品評価損(▲141百万円)を計上したが、安定事業の販売構成の向上や効率化検討事業(無機材料・酸化チタン/亜鉛製品)での販売量増加により、計画比+12.5%となった。
純利益	医療事業での構造改革費用(▲420百万円)を特別損失として計上したことから、▲13.8%の減益となった。	医療事業での構造改革費用(▲420百万円)を特別損失として計上したことから、▲9.9%の減益となった。

SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD. 5

2027 年 3 月期上期の売上高は 430 億円、営業利益は 34 億 8,900 万円、経常利益は 35 億 7,200 万円、親会社株主に帰属する当期純利益は、医療事業で構造改革費用 4 億 2,000 万円を特別損失で計上したことから、25 億 2,200 万円と前年同期比で 13.8%の減益となりました。

営業利益増減要因（前年同期比）



プラス要因	マイナス要因
販売単価差 ・中東情勢悪化による原燃料/原材料のコスト上昇を価格に随時反映（樹脂添加剤、有機化学品） ・国内亜鉛建値相場の高騰	**原燃料単価差** ・中東情勢悪化による原燃料/原材料のコストの上昇

前年同期比で営業利益の増減要因をウォーターフォールチャートで示しております。

主なプラス要因として、販売単価差がございます。これは中東情勢悪化による原燃料および原材料のコスト上昇を主に樹脂添加剤や有機化学品において価格に随時反映、つまり価格転嫁を適切に実施したこと、そして国内亜鉛建値相場の高騰によるものでございます。

主なマイナス要因として、先ほど申し上げました中東情勢の悪化による原燃料および原材料のコスト上昇がありましたが、このコスト上昇を販売単価差で打ち返しております。

期初計画比で営業利益の増減要因を示しております。先ほど申し上げましたように、主なプラス要因は販売単価差、主なマイナス要因は、原燃料、原材料のコスト上昇ですが、期初計画比で見ましても、原燃料、原材料のコスト上昇を販売単価差で打ち返しております。

貸借対照表比較

比較連結 B/S　(単位：百万円)	2026.3	2026.9	増減
現金及び預金	15,502	15,063	▲439
受取手形及び売掛金	25,056	25,694	638
棚卸資産	23,881	23,247	▲634
その他	912	957	45
流動資産 合計	**65,352**	**64,961**	**▲391**
有形固定資産	43,167	42,033	▲1,134
その他	8,697	10,650	1,953
固定資産 合計	**51,864**	**52,683**	**819**
資産 合計	**117,216**	**117,644**	**428**
支払手形及び買掛金	8,632	9,758	1,126
短期借入金	8,357	10,458	2,101
その他	8,281	6,970	▲1,311
流動負債 合計	**25,272**	**27,186**	**1,914**
長期借入金	4,643	5,783	1,140
転換社債型新株予約権付社債	3,000	-	▲3,000
その他	5,376	6,095	719
固定負債 合計	**13,021**	**11,878**	**▲1,143**
負債 合計	**38,293**	**39,064**	**771**
株主資本	72,771	71,026	▲1,745
その他	6,150	7,554	1,404
純資産 合計	**78,923**	**78,580**	**▲343**
負債・純資産 合計	**117,216**	**117,644**	**428**

【主な増減】

・固定資産/その他　+1,953百万円
投資有価証券の評価差額による増加

・借入金　+3,241百万円
成長投資や自己株式取得資金に充当。

・転換社債型新株予約権付社債 ▲3,000百万円
社債の転換により、新株1,519千株を発行

	24.3期末	26.9期末
自己資本比率	59.3%	65.7%
ＣＣＣ	216日	164日

▲ 52日の改善

(*CCC：キャッシュ・コンバージョン・サイクル)

続きまして貸借対照表について説明します。

主な増減につきまして、固定資産のその他が前期末と比較して 19 億 5,300 万円増加をいたしました。この主な要因は、投資有価証券の評価差額によるものです。

負債の部について、短期、長期借入金が約 32 億円増加をいたしました。こちらは成長投資や自己株式取得の資金に充当しております。

また、転換社債型新株予約権付社債の株式への転換により、社債が 30 億円減少し、新株を 151 万 9,000 株発行しました。キャッシュ・コンバージョン・サイクルにつきましては、2026 年 9 月末時点で 164 日、現中計の始まる直前の 2024 年 3 月末と比較して 52 日改善をしております。

キャッシュフロー計算書比較

比較連結 C/F（百万円）	2025.9	2026.9	増減
期首 現預金残高	16,153	15,444	▲708
税金等調整前当期純利益又は当期純損失	4,349	3,795	▲553
減損損失	14	387	372
減価償却費	1,849	1,905	56
売上債権の増減額	518	▲648	▲1,166
棚卸資産の増減額	310	675	365
有形固定資産の売却損益	▲1,172	▲1,172	-
仕入債務の増減額	545	967	421
法人税等の支払額、還付額	▲572	▲1,126	▲553
その他	▲89	▲681	▲592
営業活動によるキャッシュフロー	5,752	4,102	▲1,649
有形固定資産の取得による支出	▲3,677	▲1,770	1,906
有形固定資産の売却による収入	1,274	1,325	50
その他	▲199	▲248	49
投資活動によるキャッシュフロー	▲2,602	▲693	1,908
FCF(営業CF＋投資CF)	3,149	3,409	259
短期借入金・長期借入金の増減額	▲967	3,209	4,176
自己株式取得による支出	▲2,089	▲6,068	▲3,979
配当金の支払額	▲1,175	▲1,222	▲46
その他	▲1	▲76	▲75
財務C/F 計	▲4,232	▲4,157	75
現預金に係る換算差額 計	▲222	85	308
現預金増減 計	▲1,305	▲662	643
期末 現預金残高	14,847	14,782	▲64

【総括】
設備投資の一巡で投資CFの支出が減少し、FCFは約3億円増加。
総額約60億円の自己株式取得を実施し、株主価値及び資本効率の向上を図った。

【営業CF】
① 売上債権の増加（▲1,166百万円）
成長事業・安定事業・その他事業で売上高が増加

② 棚卸資産の減少（＋365百万円）
主に、酸化チタン製品の在庫販売によるもの。

【投資CF】
現中期経営計画での設備投資は一巡し、
前年対比で、投資CFは＋1,908百万円。

→ FCFは、3,409百万円(前期比＋259百万円)となった

【財務CF】
自己株式取得を実施。

次にキャッシュフローでございます。

設備投資、特に成長投資の一巡で投資キャッシュフローの支出が減少し、フリーキャッシュフローは約 3 億円増加をいたしました。また、総額約 60 億円の自己株式取得を実施し、1 株当たりの株主価値および資本効率の向上を図りました。

営業キャッシュフローは、売上高が足元の売上高アップにより増加した一方、棚卸資産は酸化チタン製品の在庫販売により減少したことなどにより、プラス 41 億 2,200 万円となりました。投資キャッシュフローは、設備投資が一巡し、マイナス 6 億 9,300 万円と、前期比で 19 億 800 万円増加をいたしました。その結果、フリーキャッシュフローはプラス 34 億 900 万円と、前年比で約 3 億円プラスになりました。

財務キャッシュフローにつきましては、資本効率改善に向けて自己株式取得を実施したことなどにより、マイナス 41 億 5,700 万円となりました。

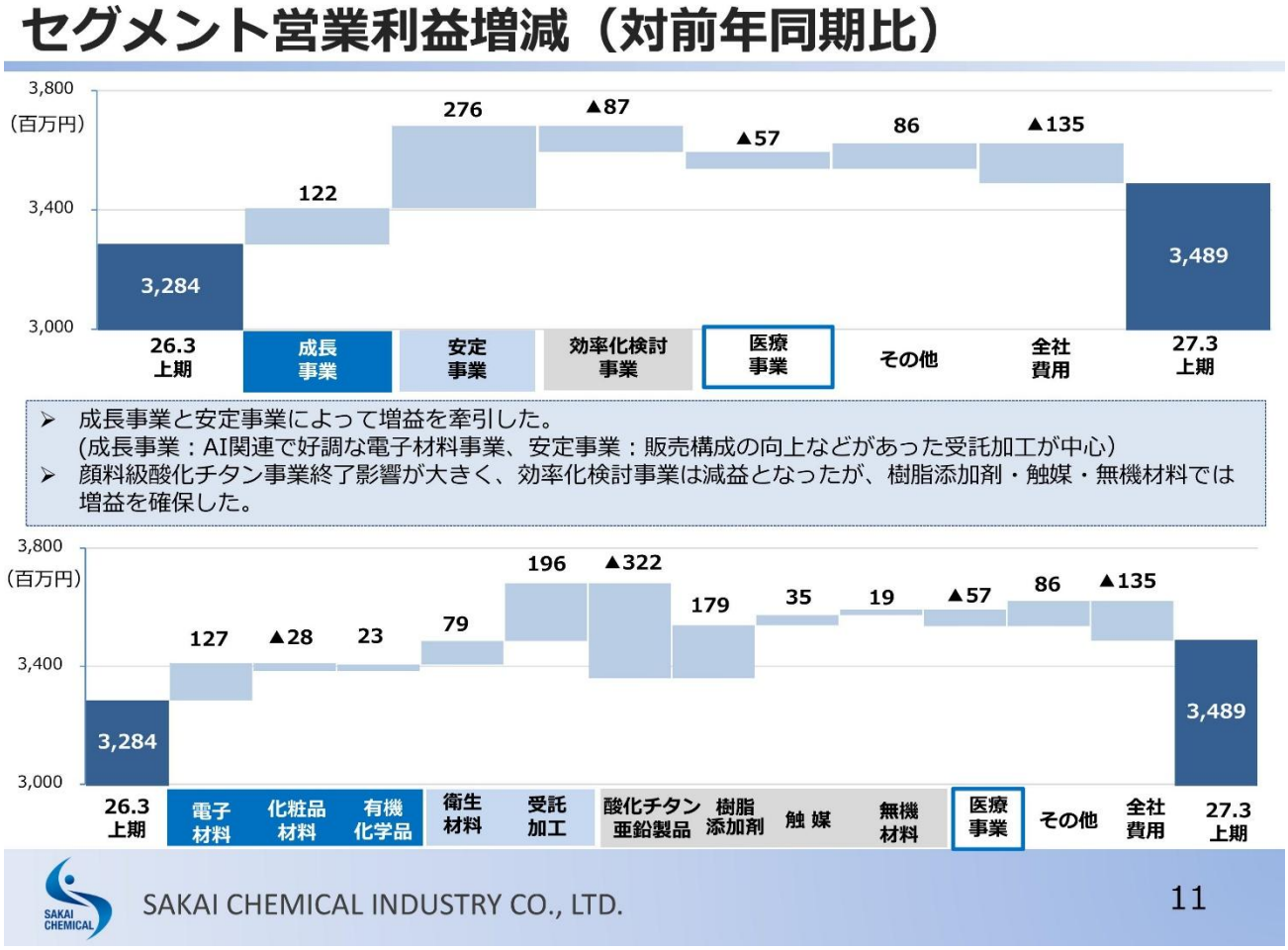
セグメント別 営業利益（前年同期比）

事業別 営業利益 明細 (百万円)	26.3 上期	27.3 上期	増減
成長事業	**1,300**	**1,423**	**122**
電子材料	1,014	1,141	127
化粧品材料	▲215	▲244	▲28
有機化学品	502	525	23
安定事業	**533**	**809**	**276**
衛生材料	181	260	79
受託加工	351	548	196
効率化検討事業	**1,819**	**1,732**	**▲87**
酸化チタン・亜鉛製品	657	335	▲322
樹脂添加剤	520	699	179
触媒	150	185	35
無機材料	491	511	19
医療事業	**72**	**15**	**▲57**
その他	**724**	**811**	**86**

セグメント別の営業利益の増減を前年同期比で示しております。

成長事業は電子材料、安定事業は受託加工が寄与し、増益となりました。

効率化検討事業は構造改革として取り組んだ顔料級酸化チタン事業終了の影響がございましたが、樹脂添加剤などその他の事業は健闘し、減益幅は小幅なものとなりました。



セグメント別の営業利益、対前年同期からの増減をウォーターフォールチャートで示しております。

ご覧のように、成長事業と安定事業が増益を牽引いたしました。効率化検討事業は、構造改革として取り組んだ顔料級酸化チタン事業終了の影響がございましたが、樹脂添加剤、触媒、無機材料は増益を確保し、減益幅は小幅なものとなりました。全社費用は、特別転進支援プログラムの追加費用を営業費で計上した影響もあり、増加いたしました。

2027年3月期業績予想

- 下期は、電子材料は引き続き好調に推移するが、顔料級酸化チタンの在庫販売の減少や、好調であった無機材料での販売構成の悪化を見込むため、対上期比では減収減益となる見通し。
- 通期では、顔料級酸化チタン事業の終了影響を、主に好調な電子材料やその他事業でカバーし、対前年比では増収増益を見込む。
- 当期純利益は、前期計上した大幅な減損はなく、政策保有株式の売却益を考慮し、増益を見込む。

	26.3		27.3		27.3						
	通期実績		期初計画		上期実績		下期予想		修正計画		
	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	百万円	売上高比 %	前期比 %
売上高	81,447	—	81,700	—	43,000	—	42,000	—	85,000	—	4.4
営業利益	6,452	7.9	6,000	7.3	3,489	8.1	3,011	7.2	6,500	7.6	0.7
経常利益	6,545	8.0	6,100	7.5	3,572	8.3	2,982	7.1	6,500	7.6	▲0.7
親会社株主に帰属する当期純利益	2,752	3.4	4,400	5.4	2,522	5.9	2,078	4.9	4,600	5.4	67.1

外部要因（想定）		内部要因（想定）	
プラス面	マイナス面	プラス面	マイナス面
・半導体市場が好調に推移 ・国内亜鉛建値市況の高騰	・中国経済の長引く低迷	・下期繰り越し分の出荷（触媒）	・固定費負担割合の増加 ・在庫販売の減少（顔料級酸化チタン）

＊米国相互関税政策や中東情勢による影響は予測が困難なため、計画値には織り込んでいない。

SAKAI CHEMICAL INDUSTRY CO., LTD. 13

続きまして、2027 年 3 月期業績予想でございます。

電子材料は引き続き好調に推移すると見ておりますが、顔料級酸化チタン事業の在庫販売の減少や、好調だった無機材料での販売構成の悪化、これは収益性の高い開発品の出荷調整による影響を見込んでおりますが、対上期比では減収減益となる見込みです。

通期では顔料級酸化チタン事業終了の影響を、主に好調な電子材料やその他事業でカバーし、対前年比では増収増益を見込んでおります。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前期計上した大幅な減損はなく、政策保有株式の売却益を計上する予定であることなどを考慮し、増益を見込んでおります。

これらを勘案し、通期業績予想を売上高 850 億円、営業利益 65 億円、経常利益 65 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は 46 億円に上方修正いたしました。なお、米国相互関税政策や中東情勢による影響は予測が困難なため、この計画値には織り込んでおりません。

事業環境の認識（中東情勢を除いたもの）

	事業	27.3期 計画の前提（5月時点）	27.3期 計画の前提（11月時点）
成長事業	電子材料	・AIデータセンター関連については好調を維持する。	・AIデータセンター関連や車載関連については堅調に推移していく見通し。
	化粧品材料	・中国向けは引き続き厳しい見通し。 ・世界的にインフレ基調であり、一時的なコスト重視の傾向から、有機系材料から無機系材料へのシフトは想定より鈍い。	・中国向けは引き続き厳しい見通し。 ・世界的にインフレ基調であり、一時的なコスト重視の傾向から、有機系材料から無機系材料へのシフトは想定より鈍い。 ・欧米向けをはじめ、海外向けは回復基調にある。
	有機化学品	・光学機能材料市場は、堅調に推移していく。 ・医薬品原薬中間体の主力商流品の受託は、競争環境の激化により減少傾向の見通し。	・光学機能材料市場は、堅調に推移していく。 ・医薬品原薬中間体の主力商流品の受託は、競争環境の激化により減少傾向の見通し。
効率化検討事業	酸化チタン亜鉛製品	・亜鉛国内建値市況は、前期に比べると、上昇する見通し。	・亜鉛国内建値市況は、上期同様、高水準で推移する見通し。
	樹脂添加剤	・国内需要： PVC市況も下降傾向で、販売の増加は厳しい見込み。 ・海外需要： 中期的なPVC市況の拡大には変わらず、タイ経済の低迷は底を打つ見通し。	・国内需要： PVC市況も下降傾向で、販売の増加は厳しい見込み。 ・海外需要： 中期的なPVC市況の拡大には変わらず、タイ経済の低迷は底を打つ見通し。
	無機材料	・自動車関連部品・素材は、低調に推移する見通し ・メガネレンズ市場は、堅調に推移していく。	・自動車関連部品・素材は、堅調に推移する見通し ・メガネレンズ市場は、堅調に推移していく。

PVC：polyvinyl chloride（ポリ塩化ビニル）

中東情勢を除きました事業環境の認識でございます。左側に今年 5 月時点、右側に現時点、11 月時点の事業に認識を示しております。

今年 5 月時点から変わったセグメントは、電子材料と化粧品材料、無機材料でございます。

電子材料は、AI データセンター関連および車載関連は堅調に推移する見通しとみております。化粧品材料は欧米向けを始め、海外向けは回復基調となっております。そして、無機材料は、自動車関連は堅調に推移する見通し、このように変更をしております。

セグメント別 予想（対前期実績比）

	26.3 期 実績			27.3 期 修正計画			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	11,377	1,816	16.0	12,800	2,600	20.3	1,423	12.5	784	43.2
化粧品材料	1,720	▲437	▲25.4	2,000	▲400	▲20.0	280	16.3	37	▲8.5
有機化学品	7,185	721	10.0	8,000	1,000	12.5	815	11.3	279	38.7
衛生材料	5,353	457	8.5	6,000	500	8.3	647	12.1	43	9.4
受託加工	6,677	805	12.1	7,200	1,000	13.9	523	7.8	195	24.2
酸化チタン 亜鉛製品	10,244	1,222	11.9	6,800	300	4.4	▲3,444	▲33.6	▲922	▲75.5
樹脂添加剤	11,507	1,068	9.3	11,800	1,200	10.2	293	2.5	132	12.4
触媒	3,462	648	18.7	4,000	700	17.5	538	15.5	52	8.0
無機材料	5,100	1,200	23.5	5,600	800	14.3	500	9.8	▲400	▲33.3
医療事業	8,391	▲48	▲0.6	8,700	▲200	▲2.3	309	3.7	▲152	—
その他	10,427	1,498	14.4	12,100	1,600	13.2	1,673	16.0	102	6.8
全社費用	—	▲2,500	—	—	▲2,600	—	—	—	▲100	—
連結	**81,447**	**6,452**	**7.9**	**85,000**	**6,500**	**7.6**	**3,553**	**4.4**	**48**	**0.7**

セグメント別の通期業績予想を前期実績と比較したものです。

事業環境の変化や上期の進捗を踏まえ、セグメントごとの通期計画を見直しました。酸化チタン、亜鉛製品や無機材料、医療事業で減益を見込む一方、電子材料や有機化学品、受託加工、樹脂添加剤などで増益を見込んでおり、前期実績とほぼ同じの営業利益 65 億円に予想を修正いたしました。

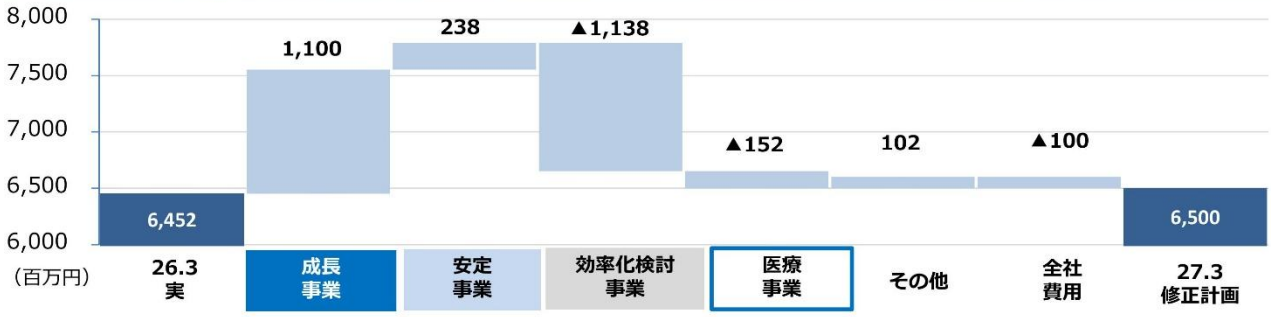
セグメント別 予想（対期初計画比）

	27.3 期　期初計画			27.3 期 修正計画			差			
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率	売上高		営業利益	
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%	百万円	%	百万円	%
電子材料	11,500	2,400	20.9	12,800	2,600	20.3	1,300	11.3	200	8.3
化粧品材料	2,000	▲400	▲20.0	2,000	▲400	▲20.0	0	—	0	—
有機化学品	8,000	1,000	12.5	8,000	1,000	12.5	0	—	0	—
衛生材料	5,200	400	7.7	6,000	500	8.3	800	15.4	100	25.0
受託加工	7,100	900	12.7	7,200	1,000	13.9	100	1.4	100	11.1
酸化チタン 亜鉛製品	6,800	100	1.5	6,800	300	4.4	0	—	200	200.0
樹脂添加剤	11,800	1,200	10.2	11,800	1,200	10.2	0	—	0	—
触媒	4,000	700	17.5	4,000	700	17.5	0	—	0	—
無機材料	5,100	700	13.7	5,600	800	14.3	500	9.8	100	14.3
医療事業	8,700	▲200	▲2.3	8,700	▲200	▲2.3	0	—	0	—
その他	11,500	1,500	13.0	12,100	1,600	13.2	600	5.2	100	6.7
全社費用	—	▲2,300	—	—	▲2,600	—	—	—	▲300	—
連結	**81,700**	**6,000**	**7.3**	**85,000**	**6,500**	**7.6**	**3,300**	**4.0**	**500**	**8.3**

セグメント別の通期業績予想を期初計画と比較したものです。

電子材料や衛生材料、無機材料、その他事業で売上高、営業利益を上方修正いたしました。全社費用が特別転進支援プログラムの追加費用等の影響により、計画比で増加を見込みますが、先ほど申し上げましたように、トータルの営業利益は 65 億円に予想を修正しました。

27.3期修正計画セグメント営業利益増減(対前期実績比)

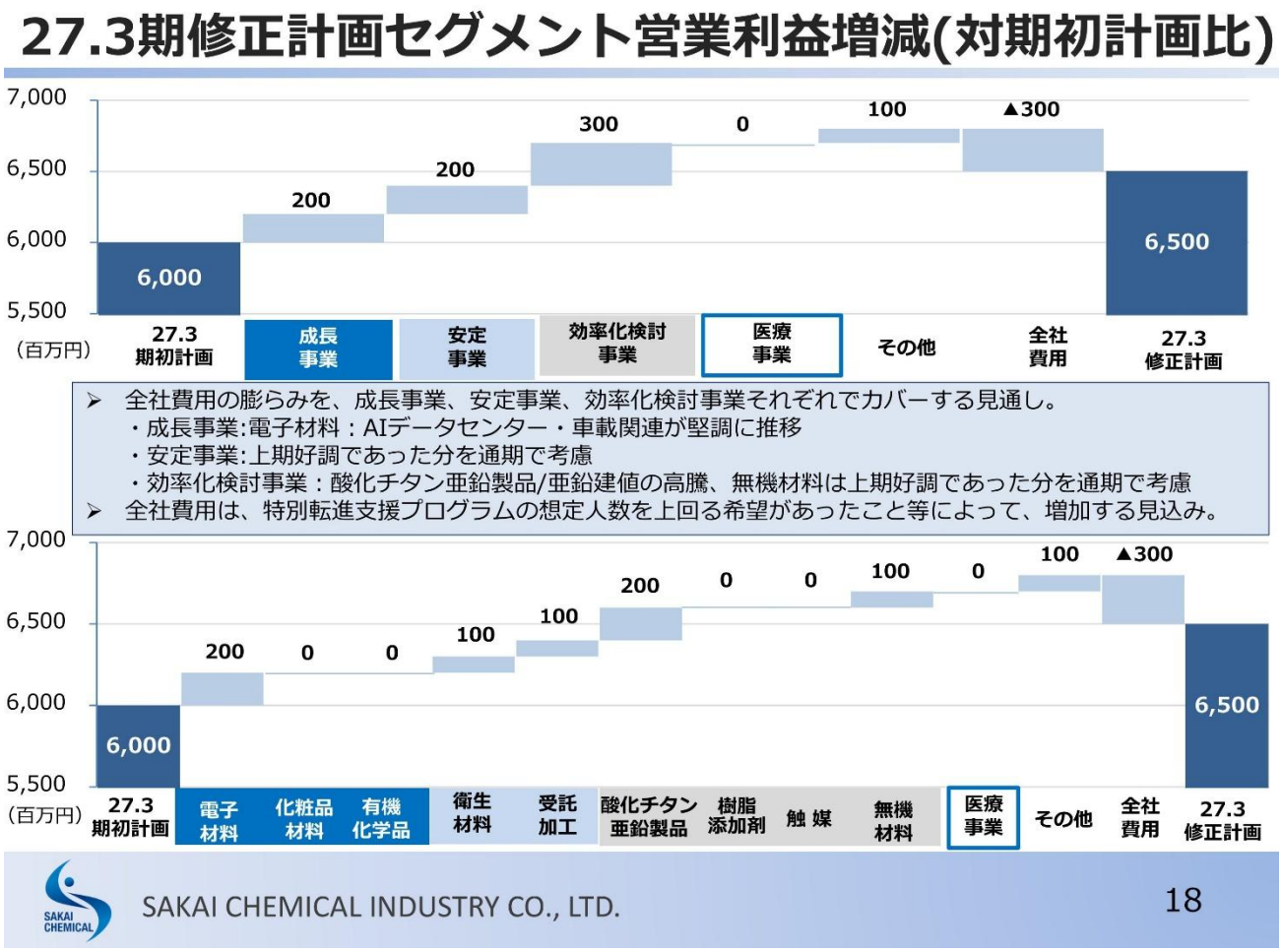


➢ 顔料級酸化チタン事業終了影響が大きい効率化検討事業によるマイナスを、堅調なAIデータセンター関連や車載関連で好調な電子材料で主に跳ね返し、前期並みの営業利益を見込む。



修正したセグメント別通期業績利益予想の前年同期からの増減をウォーターフォールチャートで示しております。

顔料級酸化チタン事業終了の影響が大きい効率化検討事業のマイナスを堅調な AI データセンター関連や車載関連で好調な電子材料で主に跳ね返し、前期並みの営業利益を見込んでおります。



修正したセグメント別通期営業利益予想の対期初計画からの増減をウォーターフォールチャートで示しております。

全社費用の膨らみを成長事業、安定事業、効率化検討事業、それぞれでカバーする見通しでございます。

設備投資・減価償却・研究開発費推移

(単位：百万円)

	22.3	23.3	24.3	25.3	26.3	27.3 計画	26.9
設備投資	5,967	2,658	4,024	6,945	6,065	5,400	2,246
減価償却費	4,331	4,417	4,354	3,649	3,735	4,000	1,905
研究開発費	2,376	2,674	2,722	2,699	2,842	3,300	1,433

設備投資について		
	26.9	
	成長投資	更新投資
比率	約30%	約70%
主な内容	・無機材料： メガネレンズ材料向け 酸化ジルコニウム分散液増強	・堺・小名浜両事業所 再構築 ・システムの保守点検

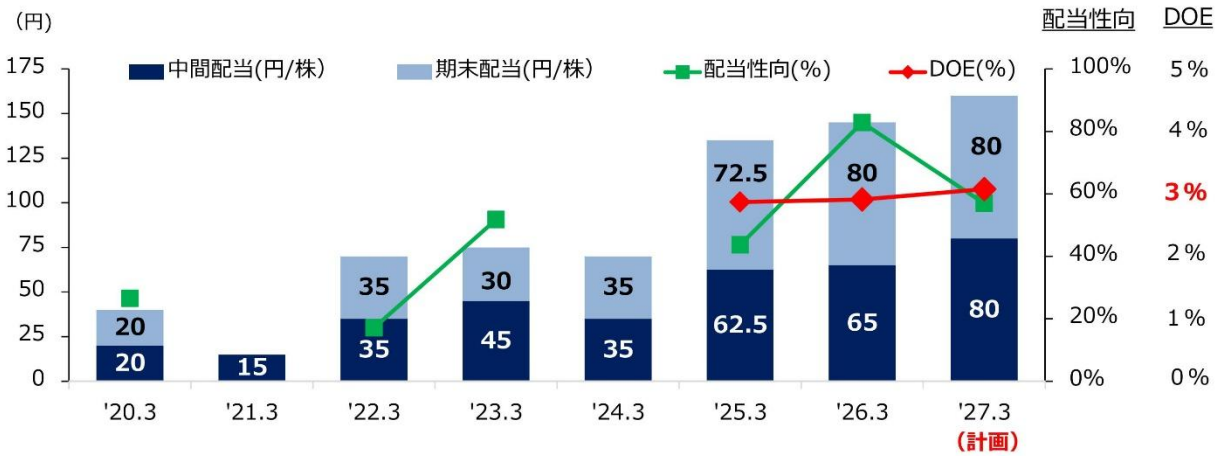
次に、設備投資、減価償却、研究開発費です。

2027 年 3 月期通期見込みについて変更はございません。設備投資については、成長投資に約 30%、更新投資に約 70%を投じる予定です。

成長投資の主な内容は、無機材料事業のメガネレンズ材料向け酸化ジルコニウム分散液の増強です。更新投資の主な内容は、堺・小名浜両事業所再構築やシステムの保守点検でございます。

株主還元

➢ 年間配当金は、前回公表値から据え置く。
中間配当：80円/株、期末配当：80円/株の、**160円/株**の年間配当を予定 (**予想**DOE：3%超)



自己株式取得	—	—	15 億円	—	—	—	25 億円	未定

DOE：Dividend on Equity（自己資本配当率）

続きまして株主還元でございます。

年間配当金は前回公表値を据え置いております。中間配当は 1 株当たり 80 円、期末配当を 1 株当たり 80 円、年間 160 円の配当を予定しております。

新株予約権の行使及び新株発行について（後発事象）

- 2023年6月発行の第4回新株予約権について、割当先（SH1, L.P.）より全額の行使請求があり、2026年10月26日までに行使完了・新株発行
- 調達資金（約**20億円**）は、全額をM&A待機資金に充当予定
- 年間配当予想（160円/株）への影響はなし

行使された新株予約権の数	10,126個（発行総数の100.0%）
交付株式数	1,012,600株
行使額面総額	1,999,885,000円（発行総額の100.0%）
未行使新株予約権数	0個（未行使残存額 0円）
（参考）発行済株式数	17,518,987株（うち自己株式 2,202,559株）※9月末

■ **調達資金の使途**

・全額をM&A待機資金とし、成長事業を中心とした事業拡大に資するM&Aに充当する予定
・現時点において、M&Aの具体的な内容および金額について決定した事実はなし
・待機資金を新株予約権発行時点の権利行使期限（2027年12月末）までにM&A 資金として充当ができなかった場合や、未充当額が生じた場合等においては、リスクの高い投資（研究開発投資・新事業投資）の資金として充当することも検討

スライドが最後でございますが、最後、後発事象。新株予約権の行使および新株発行について説明をいたします。

2023 年 6 月発行の第 4 回新株予約権につきまして、割当先より全額の行使請求があり、2026 年 10 月 26 日までに行使が完了し、新株を 101 万 2,000 株発行いたしました。年間配当予想への影響はございません。調達した資金約 20 億円につきましては、全額 M&A 待機資金とし、成長事業を中心とした事業拡大に資する M&A に充当する予定でございます。

現時点におきまして、M&A の具体的な内容および金額について決定した事実はございません。待機資金を新株予約権発行時点の権利行使期限、これは 2027 年 12 月末でございますが、これまでに M&A 資金として充当できなかった場合や未充当額が生じた場合等におきましては、リスクの高い投資、例えば研究開発投資、新事業投資の資金として充当することを検討してまいります。

私からの説明は以上になります。ご清聴どうもありがとうございました。

質疑応答

司会 [M]：それでは、これより質疑に入らせていただきます。こちらから順にご指名の上、マイクのロックを外させていただきますので、ご自身でマイクをオンに切り替えていただき、恐れ入りますが、会社名とお名前を頂戴した上で、ご質問いただきますようお願いいたします。

なお、本説明会については、書き起こしの記録をし、弊社ホームページに掲載させていただいております。会社名、お名前はもちろん伏せさせていただきますが、ご質問いただいた内容そのものについては記載されますので、その旨ご了承の上、ご質問いただければと思います。それでは質問の方をお願いしたいと思います。

質問者 1 [Q]：ご説明ありがとうございました。化粧品事業に関してお伺いしたいんですが、ここで説明があったんですが、今年度に限らず来年度に向けた見通しを教えていただけませんでしょうか。

大釜 [A]：はい。ありがとうございます。化粧品材料につきましては、説明申し上げた通りですね、売上自体は海外を中心に回復してきているところでございます。ただ、今期のガイダンスを修正はまだしておりません。まだ黒字転換というところまでは見えてないというところでございます。

来期以降のところですが、次期中期経営計画の期間に入ってきているというところで、今まさに議論しているところでございますので、ただ現時点でどれぐらいなのかといえば、そこに申し上げられないところがございますので、申し訳ございませんが、中期経営計画の発表をお待ちいただければと思います。

足元、確実に言えることは海外向けを中心に売り上げが回復してきているということでございます。以上であります。

質問者 1 [Q]：海外というのは、御社で例えば既存の欧米の、ヨーロッパのお客さんの売り上げ回復してきているのか、もしくは中国のお客さんの方の売上が回復してきているのか、どんなイメージでしょうか。

大釜 [A]：前者でございますね。やっぱり欧米、ヨーロッパ、この辺りの方の売上高が回復してきているというふうにご理解いただければと思います。

質問者 1 [Q]：アジアは引き続き弱いということですね。

大釜 [A]：そうですね。まだ我々の販路というか、国内のお客様を通じて販売するっていうところはまだちょっと、回復としては弱いというようなところでございます。

質問者 1 [M]：はい。ありがとうございます。

司会 [M]：どうもありがとうございました。お待たせいたしました。ご質問お願いいたします。

質問者 2 [Q]：二つお伺いしたいです。

一つが電子材料、積層セラミックコンデンサ向けの材料ですけど、下期以降も好調が続くということですけれども、来年度以降も結構注文はもう結構来ているんですか。

大釜 [A]：はい。来年度以降の注文というのはまだ来ておりません。まだ見込みといいますか、フォーキャストの状況でございますので、非常にネガティブな情報は特に入ってなくて、足元を含めて非常に強い状況が続くんじゃないかと見ておりますが、注文が入っているわけではございません。

質問者 2 [Q]：そうなんですね。わかりました。もう 1 点、受託加工が良かったということですけれども、これ特に何が調子が良かったんですか。どういった背景がありますか。

大釜 [A]：これですね、受託加工といいましても、事業領域としては非常に多くのマーケットといいますか、要望もございまして、これは全般的に良かったということになります。

例えば車向けなんかもあるんですけれども、諸々の事業があり全般的に良かったとご理解いただければと思います。取り立てて何かが良かった、何かが悪かったってことではございません。

質問者 2 [Q]：ああ、そうなんですね。これは下期も全般的にこの良いような状況が続くということでいいんでしょうか。

大釜 [A]：ネガティブなところは今のところございませんので、こちらも堅調に推移するんじゃないかというふうに見ております。

質問者 2 [M]：わかりました。ありがとうございます。

司会 [M]：どうもありがとうございました。その他いかがでしょうか。

質問者 1 [Q]：はい。電子材料に関して質問です。先ほどの質問とからんできてしまうんですが、AI データセンター向けの、要するにハイエンドのところの引き合いが強いという話を前に、以前からお話いただいているんですけれども、この辺の比率がどのくらいになってきているのか、その辺の何かイメージが何かあれば教えていただきたいんですが。

大釜 [A]：はい。ありがとうございます。あくまでも、これは我々の推測でございます。お客様から明確にこの材料がこの用途にということを教えていただけるとほとんどないので、あくまでも我々の推測でございますが。

足元この電子材料の中での AI データセンター用であろう物の売上比率というのは、もう 10%超えていると。10 から 20%ぐらいの領域になってきて、昨年、前年同期比でいうとまだ 10%にいかないレベルだったというふうに我々として見ているんですが。それがもう 10%を超えてきている。10 から 20%ぐらいの比率になってきているというふうにお考えいただければと思います。以上になります。

質問者 1 [Q]：また、下期にさらに比率拡大する見通しですか。

大釜 [A]：はい。単純に、これが 20 から 30%になるかというと、この辺なかなか難しい状況になってきているというのもあります。

というのは、やはりこれハイエンド用ということもありまして、あとは生産キャパシティの問題というところもございます。ですから、これが倍々ゲームで増えていくというのは見ておらず、引き合いが強い状況が続くというのは見ているんですが、これが 20%を超えるかっていうと、なかなかその辺はちょっと難しいというふうに見ております。

質問者 1 [Q]：はい。あと、すいません。もう一つ、ここで初めての車載関連について堅調というワーディングが出ておるんですけれども、この辺は具体的にどういった状況で、この辺は継続性を見ていてもよろしいでしょうか。

大釜 [A]：はい。こちらに関しましては、あくまでも我々の推測でございますが、車載用途に使われている品番が比較的堅調に出荷の売上があったというところでございます。この辺りを踏まえましてですね、通期の特に売上のガイダンスを変更したというのはそういう背景があるというふうにご理解いただければと思います。

当初 5 月の時点での事業環境の方、我々の認識としては車載用途ってそんなに良くないんじゃないかというところなんですが、劇的に成長しているというわけじゃないですが、堅調な需要はあるなというように見ています。それが下期継続するんじゃないかというふうに見ているところです。

質問者 1 [Q]：車載用途の比率ってどのくらいになりますか。

大釜 [A]：我々のあくまでも推測の中での売上比率でありますが、大体 20 から 30%ぐらいというは車載用途だというふうに見ているところです。

質問者 1 [M]：はい。ありがとうございます。

司会 [M]：どうもありがとうございます。

司会 [M]：ここで、質問者 3 よりチャットでご質問いただいておりますので、私のほうで代読させていただきます。

質問者 3 [Q]：終わった上半期において、電子材料セグメントで誘電体材料に関して一時的な評価損を計上したとありますが、どのような内容でしょうか。確か前期の第 3 クォーターあたりにも似たような計上をしたような記憶がございますが、今回も一過性と考えていいでしょうか。

大釜 [A]：はい。ありがとうございます。ご理解の通り、前期にもこういう一時的な評価損トラブルで、評価損を計上したということがございましたが、内容に関しましては、ちょっとこれは異なる事象でございます。

ただ原因としてはつかんでおりまして、今回も一過性のトラブルによる評価損を計上したとご理解いただければというふうに思います。以上になります。

司会 [M]：追加でもしご質問おありの場合は、またチャットいただければと思います。その他、ご質問いかがでしょうか。よろしゅうございますか。そろそろお時間も近づいて参ります。

質問者 1 [Q]：誘電体、電子材料に関してお伺いしたいんですが、誘電体と誘電体材料の上期の売上の伸び率、それとあと下期の動向で、それぞれのバランスを教えていただいてもよろしいでしょうか。

大釜 [M]：前年同期との比較でございますね。

質問者 1 [M]：そうですね。はい。

大釜 [A]：はい。まず誘電体材料に関しましては、ほぼ横置きぐらいですね。ただ構成差というか売上に関しては横置きぐらいですね。ほぼ横ばいと考えいただければと思います。はい。それで誘電体に関しましては大体 10%ぐらい伸びというふうになっています。

質問者 1 [Q]：はい。下期はどんなバランスとか、この上期のバランスはどんなイメージですか。

話者 [A]：はい。これキャパシティの問題も出てきていますので、どちらかが多く、伸びが急に増えるということはなくて、いずれも前年同期、下期同期で見ますと、今期のほうがかなり増えるというふうに思っていますが、大体上期と絶対量といいますか、売上高に関しては上期と大体同じぐらいで推移するんじゃないかと思います。

誘電体材料も誘電体も両方とも同じぐらい売上高で推移するんじゃないかと思います。

質問者 1 [Q]：むしろ誘電体のほうの貢献が大きくなってきているということでしょうか、今回。

話者 [A]：そうですね。これは少し、すぐ売上減らしていたという部分もあるんですが、電子材料の中では誘電体の貢献っていうか、そこは少し今期に関しては大きくなっているということでございます。

質問者 1 [M]：ありがとうございます。

司会 [M]：ありがとうございました。それではお時間の方も近づいてまいりましたので、その他ご質問おありの方いらっしゃらないようであれば、終了とさせていただきたく存じますが、いかがでしょうか。

それでは、以上をもちまして説明会のほうを終了させていただきます。本日はご出席賜り誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

［了］

脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

免責事項

本資料は、情報の提供を目的とし、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成したものであり、リスクや不確実性を含んでいるため、実際の業績はこれと異なる結果となる可能性があります。また、化学事業のサブセグメントの数値は任意で公表しているものであり、監査を受けておりませんので、参考値とご承知おきください。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に依存して投資判断されることにより生じうるいかなる損失に関して、当社は責任を負いません。